

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	豊田工業大学
設置者名	学校法人 トヨタ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
工学部	先端工学基礎学科	夜・通信	2	2	17.5	19.5	13		
		夜・通信							
		夜・通信							
		夜・通信							
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> ・大学 Web のシラバス検索ページにおいて、「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表を掲載。(https://www.toyota-ti.ac.jp/student/jugyo/syllabus.html) ・シラバス検索ページの“実務経験”検索枠で「01:実務経験のある教員が担当」を選択して検索すると、当該授業科目のシラバス一覧表が抽出表示される。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	豊田工業大学
設置者名	学校法人 トヨタ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページでの公表：<https://www.toyota-ti.ac.jp/about/profile/yakuin.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東北大学 未来科学技術 共同研究センター教授	2021. 6. 1～ 2025. 5. 31	学識経験者
非常勤	日本製鉄株式会社 取締役相談役	2023. 6. 1～ 2025. 5. 31	学識経験者
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	豊田工業大学
設置者名	学校法人 トヨタ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><u>(1)授業計画(シラバス)の作成過程(2024年度版実績)</u></p> <p>(通年) 毎学期、授業公開科目を設定し、教員相互の授業参観を実施。実施後には授業検討会を開催し、授業の方法やシラバスの内容等について意見交換を実施。</p> <p>(11月) 「シラバス作成要領」の策定(教務委員会で審議・決定)。</p> <p>(1月) 各授業担当教員がシラバスを作成。 「シラバス作成要領」に定めたフォーマットに従って作成するものとし、授業の方法・内容、到達目標、成績評価の方法・基準、準備学修の具体的な内容、各授業回の内容、授業の進め方等を記載。</p> <p>(1月) 関係教員によるシラバスの相互チェックを経て、シラバスが完成。</p> <p><u>(2)授業計画(シラバス)の作成・公表時期</u></p> <p>(2月) シラバス完成。</p> <p>(3月) 大学 Web で学内外にシラバスを公表。(2月までは前年度シラバスを掲載)</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学 Web にて学内外に公表</p> <p>https://www.toyota-ti.ac.jp/student/jugyo/syllabus.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(1)成績評価の方法

- ・シラバス作成時において、関係教員によるシラバス相互チェックを実施している。
- ・全ての授業科目は、履修登録した科目ごとにS, A, B, C, Dの成績評価を行い、単位を認定している（S～Cが合格、Dは不合格、一部に合格/不合格による評価あり）。

(2)学修意欲の把握、継続的学習を促すための工夫

- ・成績評価は定期試験だけでなく、宿題、小テスト、中間テスト、レポートなど、できるだけ複数の評価項目により成績評価を行っている。
- ・試験後に、模範解答（解答例）を掲示し、学生に試験答案を返却。また、各教員は授業アンケート結果に対するフィードバック報告書を作成し、学生に公開している。

(3)厳格かつ適正な成績評価のチェック

- ・成績評価は、必ずシラバスに記載した評価項目・割合で行っている。
- ・「出席点」は学修成果とは言えないため、評価項目には加えないこととしている。
- ・毎学期、一定科目について、教務委員会による成績評価の適切性検査を実施。適切な成績評価方法および厳格・適正な単位認定の実施についてチェックしている。

(4)「卒業研究」の評価

- ・毎年、論文の「作成要領」を発行し、スケジュールや評価方法を策定。論文作成のほか、発表会を開催し、各教員の評価を踏まえて指導教員が「合格/不合格」により成績評価を行い、単位を認定している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

(1)客観的な指標の具体的な内容 (GPA)

- ・成績評価は、履修登録した授業科目ごとにS, A, B, C, D (Dは不合格) の評価を行い、単位を認定している。また、GPAによる客観的な指標も導入しており、学期(半年)ごとに各授業科目のGPA、各学生のGPAを算出している。
- ・学年ごとにヒストグラムを作成し、GPAの分布状況を把握し、学生および教員に資料を配付している。これにより、学生は自身の学習の達成度を確認し、以後の学修計画の見直しの参考としている。また、教員は各授業科目の学生の理解度を把握し、以後の授業改善に役立てている。

《成績評価・指標の概要》

合否	評点	成績評価	GP
合格	90点～100点	S	4点
	80点～90点未満	A	3点
	70点～80点未満	B	2点
	60点～70点未満	C	1点
不合格	60点未満	D	0点

《GPAの算出式》

$$\frac{(U_S \times 4) + (U_A \times 3) + (U_B \times 2) + (U_C \times 1) + (U_D \times 0)}{\text{履修登録科目総単位数} (U_S + U_A + U_B + U_C + U_D)}$$

- U_S: 成績評価がSの科目の単位数
- U_A: 成績評価がAの科目の単位数
- U_B: 成績評価がBの科目の単位数
- U_C: 成績評価がCの科目の単位数
- U_D: 成績評価がDの科目の単位数

(2)客観的な指標の適切な実施状況

- ・D評価(不合格)の判定を受けた科目も、GPAの対象に含めている。
- ・履修取り消しをした科目は、GPAの対象外としている。
- ・一部の実験・実習・実技科目など「合格/不合格」で評価する科目は、GPの設定がないため、GPAの対象外となる。
- ・外国語科目は学力別のクラス編成を行っており、クラス間の評価の公平性を保つことが難しいため、GPAの対象外としている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学 Web にて学内外に公表
<https://www.toyota-ti.ac.jp/academics/program/feature.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(1) 卒業の認定に関する方針の具体的な内容

- 工学部のディプロマポリシー（学位授与方針）を次のとおり定め、大学 Web で公表している。

学部においては、基礎を重視した分野横断型の教育と体験的教育を通して、社会人としての基礎力と国際的な視野を持ち、多様な課題に挑戦し克服できる学識、論理的思考と創造性を備えた技術者・研究者を育成することを目標として、次の学識と能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（工学）の学位を授与します。

- 日本語による的確なコミュニケーション能力および英語等の外国語による基本的なコミュニケーション能力
- 物事に対して幅広い見方、論理的な考え方ができるとともに、説明できる能力
- データ科学を含む十分な工学基礎の知識を修得し、それを工学分野の学習に適用する能力
- 機械システム、電子情報および物質工学の各分野の基礎知識
- 機械システム、電子情報および物質工学の各分野の内少なくとも 1 分野の専門知識・技術
- 目標を把握し、創造性を発揮し解決策を立て、問題を解決する能力および協調してチームとしての目標達成に寄与することができる能力
- 修得した学識と能力を活用し、技術者の果たすべき役割と社会的責任を理解しつつ、研究を遂行できる能力

(2) 卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

- ディプロマポリシーを達成するため、次のとおり卒業要件を定め、これを充足した者に卒業を認定している。

a.	4 年以上在学していること。		
b.	すべての必修科目の単位を修得していること。		
c.	次の単位数を修得していること。		
	区分	単位数	条件
	教養科目	12 単位以上	教養コア科目 6 単位以上 (必修科目含む)
	外国語科目	10 単位以上	英語科目 8 単位以上
	健康・体力科目	2 単位以上	
	工学基礎科目	24 単位以上	計 108 単位以上 主専攻分野科目 40 単位以上
	専門科目	70 単位以上	
	合計	132 単位以上	
d.	英語 Step-Up Point 制度のポイント 100 点以上を取得していること。		

- 卒業の認定は、教授会において学生一人ひとりの単位修得状況を把握し、卒業要件を充足していることを確認のうえ、卒業の認定を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<ディプロマポリシー>

<https://www.toyota-ti.ac.jp/academics/policy/diploma.html>

<卒業要件>

<https://www.toyota-ti.ac.jp/academics/gakubu/overview.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	豊田工業大学
設置者名	学校法人 トヨタ学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ（事業報告書の中に記載） https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ（事業報告書の中に記載） https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf
財産目録	ホームページ（事業報告書の中に記載） https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf
事業報告書	ホームページ https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf
監事による監査報告（書）	ホームページ（事業報告書の中に記載） https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2023年度(令和5年度)事業報告書 対象年度：2023年度）
公表方法：ホームページへの掲載 (https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/houkoku.pdf)
中長期計画（名称： 対象年度： ）
公表方法：

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：「自己点検・評価報告書」の作成，ホームページへの掲載 https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/files/2023_evaluationreport.pdf
--

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.toyota-ti.ac.jp/about/disclosure/juaa.html
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工学部 先端工学基礎学科
教育研究上の目的（公表方法：大学 HP 掲載（学則 第 1 章 第 1 条）） https://www.toyota-ti.ac.jp/about/profile/regulations.html
（概要）本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、社会との緊密な交流連繋のもとに、豊かな人間性と創造的な知性を備えた実践的技術者を育成し、合わせて深く専門の学術を研究し、もって学術文化及び社会の発展に寄与することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：大学 HP 掲載） https://www.toyota-ti.ac.jp/academics/policy/diploma.html
（概要）学部においては、基礎を重視した分野横断型の教育と体験的教育を通して、社会人としての基礎力と国際的な視野を持ち、多様な課題に挑戦し克服できる学識、論理的思考と創造性を備えた技術者・研究者を育成することを目標として、次の学識と能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（工学）の学位を授与します。 <ul style="list-style-type: none">・日本語による的確なコミュニケーション能力および英語等の外国語による基本的なコミュニケーション能力・物事に対して幅広い見方、論理的な考え方ができるとともに、説明できる能力・データ科学を含む十分な工学基礎の知識を修得し、それを工学分野の学習に適用する能力・機械システム、電子情報および物質工学の各分野の基礎知識・機械システム、電子情報および物質工学の各分野の内少なくとも 1 分野の専門知識・技術・目標を把握し、創造性を発揮し解決策を立て、問題を解決する能力および協調してチームとしての目標達成に寄与することができる能力・修得した学識と能力を活用し、技術者の果たすべき役割と社会的責任を理解しつつ、研究を遂行できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学 HP 掲載） https://www.toyota-ti.ac.jp/academics/policy/curriculum.html
（概要）学部においては、基礎を重視した分野横断型の教育と体験的教育を通して、社会人としての基礎力と国際的な視野を持ち、多様な課題に挑戦し克服できる学識、論理的思考力と創造性を備えた技術者・研究者を育成することを目標として、学生が自分の志向、能力、適性に応じて自ら選択できるカリキュラムを、次の基本方針に基づいて編成します。 <ul style="list-style-type: none">・教養科目と英語等の外国語科目を適切に開設し、幅広い見方、論理的な考え方とコミュニケーション能力を養成します。・データ科学を含む高水準の工学基礎科目を充実し、工学の幅広い分野で通用する基礎的能力を養成します。・機械システム、電子情報、物質工学の各分野の専門科目を体系的に開設し、専門知識を深めるとともに、論理的思考力を伸ばし、専門外の分野にも視野を広げます。・実験、実習、演習等を適切に開設し、少人数指導体制で体験的に学ぶ機会を充実させ、課題発見能力や創造力を段階的に養成するとともに、協調性を養います。・「卒業研究」を通して、修得した学識と能力を活用し、論理的思考力と創造性を発揮して問題を解決する能力を養成します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP 掲載） https://www.toyota-ti.ac.jp/admissions/info/policy.html

(概要)

学部においては、基礎を重視した分野横断型の教育と体験的教育を通して、社会人としての基礎力と国際的な視野を持ち、多様な課題に挑戦し克服できる学識、論理的思考力と創造性を備えた技術者・研究者を育成することを目標としています。

○入学者受け入れ方針

上記の目標に従って人材育成を行うため、以下の資質を有する学生を求めています。

- i 高等学校等において教科・科目を幅広く学び、大学での学習に必要な基礎学力（特に、数学、理科、英語）を有している人
- ii 自己の能力向上に強い意欲を持ち、目標に向かって能動的に行動できる人
- iii 理工学に対する興味、関心があり、将来、理工学を通じて人類や社会の持続的な発展に貢献することを希望している人
- iv 論理的に考え、他の人とコミュニケーションがとれる能力がある人
- v 互いの人格を尊重し、自らの個性を発揮しつつ、他の人と協働できる人間的素養を備えている人

○入学者選抜の基本方針

上記の入学者受け入れ方針に従って人材を多角的な評価基準により選抜するために、複数の入学者選抜を実施します。

【一般選抜】

一般入試、大学入学共通テストを通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力などを評価します。

【学校推薦型選抜（公募推薦入試）】

筆記試験と面接試験及び書類審査を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、科学への関心や社会貢献への理解があり、主体的・継続的に活動ができることを重視します。

【学校推薦型選抜（指定校推薦入試）】

面接試験と書類審査を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、本学で学ぶ強い意志を有し、科学への関心や社会貢献への理解があり、主体的・継続的に活動ができることを重視します。

【帰国生徒特別選抜】

筆記試験と面接試験及び出願書類を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、海外経験に基づく広い視野での科学への関心や社会貢献への理解があり、主体的・継続的に活動ができることを重視します。

【国際バカロレア特別選抜】

筆記試験と面接試験及び出願書類を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、探究心や国際的な視野を備えた学習者としての科学への関心や社会貢献への理解があり、主体的・継続的に活動ができることを重視します。

【社会人特別選抜】

筆記試験と面接試験及び出願書類を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、実務経験に基づく学修意義の理解や企業復帰後の学識をいかしたキャリアビジョンなどを有することを重視します。

【社会人特別選抜（編入学）】

筆記試験と面接試験及び出願書類を通じて、工学部で専門科目を学修するために必要な基礎学力と工学基礎科目の知識、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲、高等専門学校等での研究実績などを評価します。特に、実務経験に基づく学修意義の理解や企業復帰後の学識をいかしたキャリアビジョンなどを有することを重視します。

【高等専門学校第3年次編入学試験】

面接試験及び出願書類を通じて、工学部で専門科目を学修するために必要な基礎学力と工学基礎科目の知識、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲、高等専門学校での研究実績などを評価します。

【外国政府派遣留学生特別選抜】

日本留学試験、小論文、面接試験及び出願書類を通じて、工学部で学修するために必要な基礎学力、思考力・判断力・表現力、工学を学ぶ意欲などを評価します。特に、本学で学修する数学・理科の学力や論理的に考え日本語で表現できる力を重視します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学 HP 掲載

<https://www.toyota-ti.ac.jp/about/profile/files/uneisoshiki.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
工学部	—	26人	13人	4人	5人	人	48人
附属研究所		3人	0人	0人	0人	人	3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		52人					52人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：HP による公表（TTI-RIS 研究者情報システム） https://ttiris.toyota-ti.ac.jp/html/home_ja.html						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、2005 年度から組織的取り組みとして、教育・研究・管理・社会貢献等の大学の活動全般について改善・向上させる FD（Faculty Development）活動を推進している。以下は、2023 年度における教育改善の取り組み実績。</p> <p>(1) 全学授業アンケート 前期・後期ともに開講した全科目について授業アンケートを実施。アンケートは記名式、自由記述欄を設けるなど、学生自らが積極的に授業改善に参加している意識を持つよう、工夫している。</p> <p>(2) 授業公開／授業検討会 教員相互の授業参観を実施。参観した教員は、公開した教員に意見・感想をフィードバック。長所や問題点の情報共有を図るとともに、参観した教員自らの授業改善にも役立てている。</p> <p>(3) 教育優秀賞／プラクティス優秀賞 創意・工夫を持って、講義・実験・実習を行う優れた教員に対し、その業績を称える賞を設けている。選考は、学生からの「授業アンケート」と投票により実施。前期・後期に実施し、教員会議の中で表彰式を行っている。</p> <p>(4) 教育談話会 全専任教員および事務局管理職が参加する合宿型の研修会。教育上の問題や課題等について集中的に討議を行い、合意形成に役立てている。また、新任教員は、学外の FD 推進に関する研修会にも参加している。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工学部	100人	96人	96.0%	412人	425人	103.2%	6人	4人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	100人	96人	96.0%	412人	425人	103.2%	6人	4人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工学部	94人 (100%)	62人 (66.0%)	32人 (34.0%)	0人 (0.0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	94人 (100%)	62人 (66.0%)	32人 (34.0%)	0人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) <進学先> 本学大学院 (豊田工業大学)、名古屋大学大学院、東京工業大学大学院 etc. <就職先> アイシン、豊田合成、豊田自動織機、三菱電機、トヨタ車体、トヨタ紡織、豊田通商システムズ、ジェイテクト、デンソーテクノ、東海理化、トヨタテクニカルディベロップメント、村田製作所 etc.				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
工学部	103人 (100%)	83人 (80.6%)	13人 (12.6%)	7人 (6.8%)	0人 (0.0%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	103人 (100%)	83人 (80.6%)	13人 (12.6%)	7人 (6.8%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
毎年、シラバス作成要領を策定し、シラバス作成時に教員に配付。フォーマットに従って作成するものとし、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法・基準、準備学修の具体的な内容、授業期間全体を通じた授業の進め方等を記載することとしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業科目について、学習・教育目標を達成し、かつ継続的学習を促すため、必ず複数の評価項目により成績評価を行うとともに、課題・試験結果に対するフィードバックを行っている。「出席点」は学修成果とは言えないため、評価項目には加えないこととしている。また、シラバスの相互チェックおよび成績評価の適切性検査を行い、適切な成績評価および厳格・適正な単位認定を担保している。				
成績評価は、履修登録した授業科目ごとにS, A, B, C, D (Dは不合格) の評価を行い、単位を付与している。また、GPAによる客観的な指標も設定しており、学期(半年)ごとに各科目のGPA、各学生のGPAを算出。学年ごとにヒストグラムを作成し、GPAの分布状況を把握し、教員および学生に資料を配付している。これにより、学生は自身の学習の達成度を確認し、以後の学修計画の見直しの参考としている。また、教員は各授業科目の学生の理解度を把握し、以後の授業改善に役立てている。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工学部	先端工学基礎	132 単位	有・無	年間 49 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 大学 HP 掲載 https://www.toyota-ti.ac.jp/about/campus/map.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工学部	先端工学 基礎学科	600,000 円	282,000 円	102,300 円	教育充実・環境整備費 100,000 円 保険料 2,300 円
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) ① 1年次全寮制を中心とした初年次教育（工学基礎科目の補習、上級生による学習・学生生活の助言） ② アドバイザー教員による指導（履修登録時における面談、授業の出欠や理解度に基づくフォロー） ③ 学生支援センターによる指導（キャンパスライフ全般の相談、サポート） ④ 学生ポートフォリオの活用（年間計画表の作成と学習・生活の記録・管理による振り返り） ⑤ 経済的支援（無利子で人数制限のない独自の貸与奨学金制度）
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 次の取組みにより支援を実施 ① 就業力を育成する必修科目の開講（「工学スタートアップセミナー」で工学導入教育、オープンラボの開催、「現代工学概論」で企業技術者から研究・開発の事例を学ぶ、「学外実習」で企業での就業体験 など） ② 学生支援センターによる進路/就職支援（進路/就職ガイダンスの開催、進路/就職の個別相談、面接練習、エントリーシートの添削、企業合同説明会の開催）
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 次の部署・体制を整備して支援を実施 ① 保健室（健康上のあらゆる相談、応急処置、血圧・尿・視力・色覚などの簡単な検査） ② 臨床心理士相談（対人関係や自分の性格など大学生活に関するさまざまな悩み） ③ 学生支援センター（キャンパスライフ全般・合理的配慮の相談窓口） ④ 学生一人ひとりに選任されたアドバイザー教員（キャンパスライフ全般）

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページの情報公開ページで掲載 https://www.toyota-ti.ac.jp/public-info/index.html

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106684
学校名 (〇〇大学 等)	豊田工業大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人トヨタ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		30人	28人	31人
内 訳	第Ⅰ区分	18人	16人	
	第Ⅱ区分	7人	10人	
	第Ⅲ区分	5人	2人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				1人
合計 (年間)				32人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	3人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	3人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	1人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	1人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。